

7	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14104007	クロマグロの資源増殖に関する生物・生化学的研究	熊井 英水 (近畿大学・水産研究所・教授 (所長))	A
<p>(意見等)</p> <p>現在世界中で注目されているマグロの養殖であるが、本グループはその先駆けとなる完全養殖に成功し、今回は特に、10,000尾を超える種苗を量産した点、高く評価する。水産業に対する貢献度も大きい。中間評価の指摘により、焦点を種苗生産に絞ったことから、成果が当初の目的に比較して狭くなったが、ほぼ期待通りの研究が進展した。特に、種苗生産技術開発においては、1) 初期減耗の把握とメカニズムの理解、2) 初期生物餌料の栄養価と海産ふ化仔魚の大量給与の確立、3) 衝突死のメカニズムの把握に関する成果があげられる。</p> <p>学術的観点からみると、論文はかなり公表されているが、まだ、投稿中や準備中のものも多く、早急に公表して欲しい。論文の質的な充実も望みたい。また、本研究の成果は出口を重視した内容であることから、「マニュアル化」を図り、技術移転が図られるような取り組みを今後行っていくことを期待する。</p>				
8	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14104008	トラフグのポストゲノム解析に関する基礎研究	渡部 終五 (東京大学・大学院農学生命科学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>いち早くトラフグのポストゲノム研究に着手し、cDNA クローニング、EST 解析、mRNA のボディマップ作成、連鎖地図の作成等、ポストゲノム研究の基盤を構築したこと、学術論文として興味ある内容を多数、質の高い雑誌に公表していること、国際シンポジウムを開催し成功させていることなど、学術的価値は大きく高く評価する。</p> <p>ただし、当初の目的から判断すると、生体防御機構の“全体像の解明”がなされたところまでは達していない。</p> <p>今回得られた基礎情報は、他魚種への応用が可能となるばかりでなく、肉質に関与する MYH 遺伝子クライスターなどの詳細な解析による養殖技術の改良に重要な示唆を与え、その波及効果は大きく、今後のさらなる発展が期待される。</p>				